

4年ぶりの開催「桜まつり」

本店は4月1日、JR秋川駅南口広場で南口商店街と油平自治会の協賛「桜まつり」に参加しました。

JAは、自己改革の一環で地域の活性化に協力する地域コミュニティ事業を行っています。「桜まつり」は大正時代から咲く安兵衛桜の下にさまざまな模擬店が出店。JA職員も米やみそ、かりんとうなど経済商品を特別価格で販売しながら地域住民と交流を行い、完売した商品もありました。

市川和夫本店長は「4年ぶりの開催に参加できてよかったです。経済商品も来場者に喜んでもらい、JAをアピール出来ました」と話しました。

本店 篠原 善政



来場者に商品を渡す職員(右)

シバザクラ今年も満開

多西支店のシバザクラが今年も満開になりました。白やピンク、薄紫色などの彩りに魅了され立ち止まる人も多いです。シバザクラは、来店客に喜んでもらうため、6年前に植栽して以来、職員が水やりなどの管理をしています。

来店客から「今年もきれいな咲きましたね。毎年、この花壇を見るのが楽しみです」と大好評です。

岡野剛支店長は「花が咲くと支店の入り口が華やかになり、来店客にも喜んでもらえてうれしく思います」と話しました。写真はインスタグラムやフェイスブックにも掲載し多くの「いいね」をいただきました。

多西支店 田中 宏季



満開を喜ぶ職員

ハセツネに「のらぼう菜」提供

五日市ファーマーズセンターあいな「のらぼう部会」は4月2日、日本山岳スポーツ協会が4年ぶりに開いた「第15回日本山岳耐久レース長谷川恒夫CUP30K(ハセツネ30K)」に協力し、参加者に開催地の特産野菜をPRしました。

参加賞として、あきる野市五日市地区の特産の江戸東京野菜「のらぼう菜」を1200束提供し、ゴールした人に配りました。

大会実行委員長でJA増戸支店の遠藤弘之支店長は「久しぶりの開催となり、参加者にのらぼう菜を配ることができてよかったです。特に茎が柔らかくておいしいのらぼう菜を楽しんでもらいたいです」と話しました。

営農支援 原 万里子



走り終えて「のらぼう菜」を受け取る参加者(左)

ますます市

あきる野市の「増戸商栄会」は地域の活性化を目的に街中を歩いてもらうことをテーマに掲げ、「第18回増戸ますます市」を開きました。JAの増戸支店駐車場で、5月21日大抽選会や歌謡ショー、写真展示など、さまざまなイベントを行いました。同支店の職員はJAをPRしながら焼き鳥を販売。農業所得増大を図る目的で、購入者に地元の花き生産者が育てたマリーゴールドとベコニアをプレゼントしました。

遠藤弘之支店長は「4年ぶりの開催となり、久しぶりに地域住民の方々といふ機会ができてよかったです。今後も積極的に参加していきたいです」と語りました。

増戸支店 高水 歩



ますます市で焼き鳥を販売する職員ら